

昔テレビで見たヒーローはいつでも悪と戦っていた。自分のためではなく、わたしたちのために。時には悲しい過去を背負いながら弱きを助け、戦うヒーローは、子どもたちの憧れだった。良いヒーローが悪い怪人をやっつけてみんなを助ける勧善懲悪の物語は、見る人に正義を教える。ヒーローは「正義の味方」なのだ。正義は、定義することは難しいが「道徳的に正しいこと」と理解されている。感受性が高い子どもの中に正義を伝えてくれるヒーローという存在はとても大きい。昭和の時代はヒーローが出演する映像作品がとて多かった。それを見て育った大人たちは少なくはないだろう。そしてその多くが正義の大切さを知ったはずだ。しかし現在はヒーローをテレビで見ることが少ない。正義というものを子どもたちに誰が教えていくのだろうか。学校で家庭で教える正義もあるが、間違いなくヒーローが教えてきた正義もあった。ローカルヒーローという存在は「子どものときにヒーローから教えてもらった正義や正しいことを今の子どもたちに教えたい」という思いが形になって生まれたものでもあるだろう。

子どもたちに、愛と夢と勇気を与えるために、正義の味方であるローカルヒーローは時代が求めているのかもしれない。  
H.A.Cの代表である羽田野勝利さんは「もちろん楽しくなければやってけませんよ」と話す。楽しさを追求した結果、子どもたちに正義を伝えることができる。楽しむことができるから「無償の精神」が生まれるのかも知れない。その精神だから子どもたちの心に響くのかも知れない。

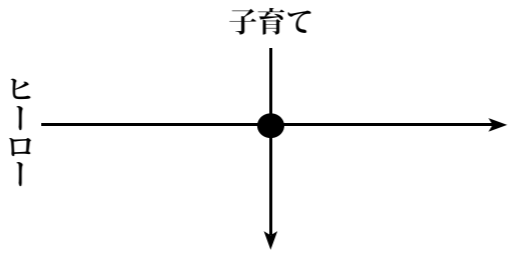


## ヒーローと子育てが 生み出す相乗効果

町内の保育園・幼稚園の子どもたちに食育や生活習慣を指導する「食育・生活習慣啓発巡回事業」。その指導役にグランパワーヒノクニを率いるファイヤーファイブアンタジの皆さんが選ばれた。幼児期に「食べ物を残さないようにしよう。遊んだら片付けよう」などを教えることはとても重要だ。

どうしたら伝えることができるのだろうか。子どもたちに伝えるには、ヒーローに伝えてもらおう。「子育てに夢が持てるまち」を目指す町の子育て支援課の思いがグランパワーヒノクニの起用につながった。

「地元」に密着している彼らだから一緒にできた事業です」と子育て支援課の職員は話す。町の子育てにもヒーローは必要とされている。



グランパワーヒノクニが作成した幼児向け指導用のビデオ。子どもたちが楽しみながら理解できるように作られている。

## ヒーローの必要性

ローカルヒーローが必要とされる理由とは一。二つの角度からヒーローの必要性、必然性を考えてみた

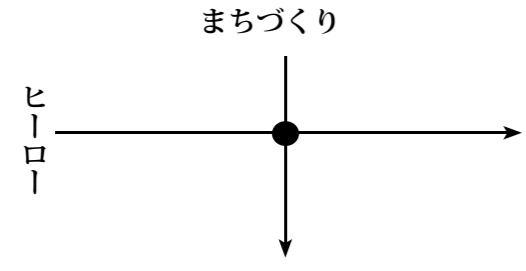


## 正義のミカタ

時代が求めるローカルヒーローには、子どもたちに、善と悪、正しいことと悪いことを伝える貴重な任務が課せられているかも知れない。ヒーローとはどのような存在なのか考察してみる。



## まちづくりを加速させる ヒーローが



熊本市動植物園での「秋桜祭り」多くの観客が、ショーを楽しみ大津町の存在を知った

グランパワーヒノクニは、町内はもちろんのこと、町外や県外でのイベントにも出動し、イベントの成功に一役買っている。町外でのイベントでは、グランパワーヒノクニは「大津町の矢護川から生まれたヒーロー」と紹介する。大津町を知ってもらうきっかけにもなり、その効果は計り知れない。

また町内でのイベントでは、彼らを知っている人たちが「リピーター」として訪れ、イベントの集客アップを期待させる。

もちろんグランパワーヒノクニがショーの中で伝える「わたしたちでこの地球を守らなければならぬ」というメッセージは、参加した多くの観客に伝わる。一石二鳥の効果があるヒーローにはある。

ヒーローのなかでも、ローカルヒーローは、町外の人にわが町を知ってもらう役割もあるだろう。すなわち、ヒーローが活躍することは地域活性化につながる。それは、まちづくりを加速させることになるだろう。

ヒーローを演じ、楽しみながら極めようとするグランパワーヒノクニ。始める前は予想もしていなかった依頼があり、多くの感謝の声を聞くことができた。

すべては楽しむために、始めたこと。楽しければ、続けることができ仲間ができる。楽しむために辛いことも我慢する。自分の生き甲斐を追求した結果の付加価値のような物かも知れない。

しかし結果的に、地域を守ることや、未来を築くことにつながっている。彼らの活動は、「まちづくり」になっているといえるだろう。

次のページでは、彼らのような、楽しんで活動している二人を紹介する。